

人権教育だより

第83号

発行 長野県教育委員会
編集 心の支援課人権支援係
発行人 原 良通
長野市大字南長野字幅下692-2
電話 026-235-7450
FAX 026-235-7484

特集 人権教育指導資料(人権教育指導資料集補完)

長野県教育委員会では、平成23年に「人権教育指導資料集」を発行しました。この中には、さまざまな人権課題についての指導案や資料を掲載しています。

「人権教育だより83号」では、その後作成した指導案と資料を掲載します。各学校の人権教育に活用していただくと幸いです。



今回取り上げた題材

○解放令と部落解放運動 (部落差別)

→「解放令が出されても、それまでと変わらなかった」というとらえが大勢を占めています。しかし、中には差別された人々が、解放令をよりどころにそれまでの差別を解消しようと立ち上がったところもありました。差別をなくそうと立ち上がった人々の行動に学びます。

○少年少女水平社の活動～高橋修峰の願い～ (部落差別)

→解放子ども会の先駆けともいえる佐久少年少女水平社の活動を通して、「ひどい差別を受けている子どもたちを何とかしたい」と、立ち上がった高橋修峰の願いや生き方について学びます。

○よかったね美穂ちゃん (部落差別)

→結婚差別を乗り越えて生きようとしている美穂さんの思いに共感しながら、部落差別に対する私たちの考え方に向き合います。

○男らしさ 女らしさ 自分らしさ (男女共生)

→社会的性差や社会的性役割にとらわれることなく、自分らしく生きる。その価値について学びます。この題材は次の性同一性障がいにつながります。

○ぼくのこと わたしのこと (性同一性障がい)

→性同一性障がいについて学び、当事者の小・中・高等学校の頃の体験を読むことで、性同一性障がいの人の思いやかかわり方について考えます。

○最後まで輝いて… (高齢者)

→地域の高齢者との交流活動やこれまでのお年寄りとのかかわり方を振り返った上で、介護・福祉の課題から「お年寄りと共に生きる」ことについて考えます。

○聴導犬と共に生きる (障がい者)

→講演会や映像を通して聴導犬の仕事を見た子どもが、2枚の写真の比較から聴導犬の役割について再考することで、聴覚障がいのある方への理解を深め、かかわり方について考えます。

解放令と部落解放運動

(社会科)

対象：小学 6 年生以上

1 本時の主眼

「解放令」が出された後、身分上厳しく差別された人々が、多くのところで差別と生活苦に見舞われたことを学んだ子どもたちが、人々がどのように行動したのかを考える場面で、人々の動きを確認することを通して、中には差別を跳ね返そうと自ら立ち上がった人々がいて、一部は権利を獲得できたことを知り、その行動の価値に共感し、自らの生活について考えることができる。

2 本時の位置 2 時間扱いの第 2 時

前時…解放令が出され喜びで迎えられたが、多くの人々の生活は苦しくなり、差別は温存されたことを知った。(『人権教育指導資料集』 p 105 参照)

3 人権教育の視点

- 解放令を受けて、自ら人間の尊厳を求める人権確立の運動に立ち上がった人々がいたことを知る。(知識)
- 自由と平等など権利を求めて行動しようとする生き方に共感する。(価値・態度)

4 指導上の留意点

- 単なる推測に終わらないように、資料①の具体的な取組から考えさせる。

5 展 開

段階	学習活動	予想される児童・生徒の反応	指導・助言	時	備考
導入	1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事が奪われ、税金が増え、生活が厳しくなった。 ・人々の意識は今までどおりで、差別はなくならなかった。 ・明治政府も対策をしなかったから、差別は残り、生活はこれまでよりも苦しくなった。 ・差別された人々は、それでも解放令を受け入れたのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時分かったことを発表させる。 ・特に人々の意識や明治政府の取組を想起させる。 	10	
展開	2 解放令が出た後の差別された人々の、行動を予想する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「解放令」が出された後、差別された人々はどのような行動をしたのか考えてみよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも差別が続いてきたから、「やっぱり」と思ってあきらめた。 ・何か行動をおこすと、今までのように人々からひどい仕打ちをされると思って、何もしなかった。 ・解放令が出たのだから、それを理由にして闘おうとした。 ・みんなで話し合っ、他の村人と同じようにしてほしいと訴えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで予想する。 ・当時の社会や人々の様子に照らして考えられるようにする。 	10	
	3 資料①から、差別された人々の行動を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の村人と、同じように生活したいと動き出した。 ・これまでの役をやめて、百姓と同じようにしてほしいと願った。 ・他の村人と、一緒にできるようにな 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組以前の様子を整理し、当時の様子をまず想像しておく。 ・権利として得られたこと、得られなかつ 	15	資料① 「K 村の差別されてきた人々の取組」

		<p>ったこともいくつかあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りを一緒にやることと、お坊さんのお話を同じように聞くことは拒否された。 	<p>たことを整理する。</p>		
ま と め	<p>4 人々の行動について思ったことや疑問を整理し、今後の自らの生活について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・差別をされた人々は、あきらめずに闘っていたんだな。 ・自ら差別をなくそうというところがすばらしい。自らというところを学びたい。 ・前時では、差別はなくならなかったと学習したのに、この村ではどうしてうまくいったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の価値について共有できるようにワークシートに分かったことを記入するよう促す。 ・K村以外のところではなかなか運動が進まなかったことを整理する。 ・K村でもすべてがうまくいったわけではないこと。また、これ以降は難しくなっていたことも必要に応じて補足する。 	10	ワークシート

K 村の差別されてきた人々の取組

資料①

取組 (申し入れ)	結果	その他
明治 5 年		
差別されてきた人々の役目であった、牢番 <small>ろうばん</small> をやめたい。	牢番役 <small>ろうばんやく</small> をとかれる。	長野県全体の牢屋 <small>ろうや</small> にまとめられたため。
お寺の「旦那 <small>だんな</small> 」にしてほしい。	「末寺」というそれまでのお寺の支配下にあるお寺の「旦那 <small>だんな</small> 」になった。	お寺では、それまでは百姓は「旦那 <small>だんな</small> 」、差別されてきた人々は「庭掃 <small>にわはき</small> 」と表現していた。
道普請 <small>みちふしん</small> (道路なおし) など他の村人と一緒にやりたい。	村は認めなかったが、県の指導で、一緒に行くこととなった。	同時に消防組織も一緒になった。
明治 6 年		
諏訪神社の祭りを他の村人と一緒にしたい。	村から受け入れられなかった。	三度願い出たが、差別された地域にも神社があるではないかという理由で、三度とも受け入れられなかった。
明治 7 年		
村役人の選挙に参加させてほしい。	次回の選挙から参加することとなった。	この年の選挙については知らせがなく、結果だけが通知されていた。
すもう興行 <small>こウぎョウ</small> を、他の村人と同じように見させてほしい。	見物賃を払ったうえ、見学できるようにした。	すもうなどの興行 <small>こウぎョウ</small> に対しては、これまではいろいろな役割を担っていたので、無料で見ることができた。しかし、差別された人々は「前の時代の役割を拒否 <small>きよひ</small> したい」、また「他の村人と同じように有料でよい」と願い出た。
お坊さんのお話 (説教 <small>せつきョウ</small>) を他の村人と同席で聞かせてほしい。	同席では聞かせられないという返答が、村からきた。	差別された人々は同席にしてみらえないなら、行かないと、行くことを拒否した。

(参照：「信州被差別部落の史的研究」尾崎行也著 柏書房)

少年少女水平社の活動～高橋修峰の願い～

(道徳)

対象：中学生

- 1 題材名 高橋修峰と少年少女水平社 ～高橋修峰の願い～ 「あけぼの 人間に光あれ ※」
内容項目「よりよく生きる喜び」 ※以下「あけぼの」と表記
- 2 本時の主眼
「解放令」の後も、厳しい差別が残る中で、差別をなくそうと立ち上がった人々の願いを知った生徒たちが、高橋修峰が子どもたちに話した内容や少年少女水平社の活動について考え合うことを通して、子どもたちの幸せを強く願い、行動した修峰の生き方に共感する。
- 3 本時の位置
前時…「解放令」によっても差別は解消されず、苦しめられてきた人々が「全国水平社」創立を考える場面を学習することで、差別する言動は許さないと自ら立ち上がったことを理解し、厳しい差別の実態に思いを寄せた。(参照：『人権教育指導資料集』P108)
- 4 人権教育の視点
 - 高橋修峰らが、水平社運動の具体的な動きとして解放子ども会の先駆けともいえる佐久少年少女水平社を組織し、差別をなくそうと活動した様子について知る。(知識)
 - 高橋修峰の考えに触れ、自由と平等など権利を求めて行動しようとした生き方に共感する。
(価値・態度)
- 5 指導上の留意点
 - 高橋修峰が子どもたちに話した4つの内容(『あけぼの』P104)を取り上げ、差別をなくすために活動をした背景にはどのような願いがあったのかを考える。
 - 振り返り用ワークシートを用いて、生徒が自分自身の意識の変化を確認できるようにする。
- 6 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1 前時の感想を発表し、差別をなくそうと自ら立ち上がった人々の願いを知る。 【全体】	・人間としての誇りを取り戻すために全国水平社が創立された。 ・自分たちで、差別をなくそうとしてすごい。私にはできるのだろうか。	○数名の生徒を指名して、前時に書いた感想を発表させる。 ○長野県でも高橋修峰が少年少女水平社の活動を始めたことを示す。	5	資料「少年少女水平社をしのぶ写真」『あけぼの』P104
展開	2 当時の差別された人々の状況の厳しさを再確認する。 ①当時どんな差別をされていたのか確認する。 ②自分がこの厳しい状況におかれたら、どんな気持ちになるかを考える。 【全体】	・待ちぶせして、石を投げたり、つばをはきかけたりして許せない。先生たちも味方じゃない。私だったら学校に行けなくなってしまう。 ・こんなにつらい状況には、向き合えない。逃げてしまいたいと思った。 ・自分は差別される人間なのかと思って、あきらめてしまう。 ・どうしたらいいかわからない。	○「実際に当時どんな差別をされていたのだろうか。」 ○当時の状況については人権教育リーフレット1の資料を用いる。 ○「自分がこの厳しい状況におかれたらどんな気持ちになるのかな。」	10	資料『人権教育リーフレット1』

	<p>3 高橋修峰の生き方や願いについて考え合う。</p> <p>(1)資料を読み、印象に残ったところに線を引く。</p> <p>(2)自分が考えたことについて、ペアで意見交換をする。</p> <p>(3) (2)について学級全体で共有し、高橋修峰の子どもたちへの願いを発表し合う。 【個人・全体】</p>	<p>厳しい差別が残る中で、「何とかしたい」と考えた高橋修峰さんは、どんな願いをもって少年少女水平社の活動をしていたのだろうか。</p> <p>【修峰が話した①～④について】</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書き、そろばんなど、学力を身につけることで、このような差別はおかしいと訴えられるようになると思う。 ・差別に負けず、学校で勉強することの大切さを教えたかった。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部落差別について正しく知ること、差別を許さず、立ち向かう強い心を育てようとした。 ・なぜ、このような差別が続いているのかを正しく知り、差別に立ち向かってほしいと願っていたと思う。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰からも立派な人間だ」と、認められるような人間になってほしいと願っていた。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ厳しい差別が残っているのに、村人も使う県道の清掃をしようとしたのはどうしてかな。 ・つらい生活の中でも、自分や他人を大切にしながら生きる尊さを教えたかったのだと思う。 	<p>○『あけぼの』を範読を聞かせ、印象に残ったところに線を引かせる。</p> <p>○P104 の高橋修峰が子どもたちに話した4つの内容を取り上げる。</p> <p>○考えを交流し合えるようにペアで意見交換をする時間を設定する。</p> <p>○短い生涯の最後まで、子どもたちの将来や幸せを願っていた修峰の様子から考えさせる。</p> <p>○ワークシートを配布し、記入するように促す。</p>	<p>27</p>	<p>『あけぼの』 P104～ P105</p> <p>振り返り用ワークシート</p>
<p>まとめ</p>	<p>4 本時の学習を、自分に引き寄せて振り返る。 【個人】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つらい思いをしている友だちの支えになるような行動をした。 ・人をからかったりしていたけれど、絶対にやらないようにする。 ・差別を見かけたら勇気を持って注意したいし、注意できるだけの立派な人間になりたい。 ・相手の立場に立ち、自分や他人を大切にすることが、幸せに生きることにつながると思う。 ・まず自分ができることは何かを考え、身のまわりにある差別をなくせるように、取り組んでいきたい。 	<p>○数名の生徒を指名し、発表するよう促す。</p> <p>☆人権週間などのはじめにワークシートに書いた差別に対する思いと、高橋修峰の生き方や願いを学んだ後に書いた考えなどを比較しながら、振り返りをさせるとよい。</p>	<p>8</p>	<p>振り返り用ワークシート</p>

厳しい差別を受けた子どもたちに対する高橋修峰の願いや、行動について考えることができたか。
(ワークシート・発言)

振り返り用ワークシート「少年少女水平社の活動 ～高橋修峰の願い～」

年 組 名 前 _____

厳しい差別が残る中で、「何とかしたい」と考えた高橋修峰さんは、
どんな願いをもって少年少女水平社の活動をしていたのだろうか。

自分の 考え	
友だちの 考え	

◎ 本時の学習を通して考えたことや、これから大切にしていきたいことをまとめよう。

<書き出しの手引き … 書くときに困ったら参考にしよう。>

- ・ 修峰さんは〇〇という思いがあったから、子どもたちに～。
- ・ 自分だったら～をしようと考えたけれど、修峰さんは～。
- ・ 修峰さんが子どもたちに伝えたかったことは〇〇で、だから～。

よかったね美穂ちゃん (特別活動)

対象：中学生

本時案

1 本時の主眼

部落差別を乗り越えようとしてきた小林さん夫妻に共感した生徒が、小林さん夫妻の娘である美穂さんの気持ちを考えることを通して、自分は差別とどう向き合うべきか考えることができる。

2 本時の位置 2 時間扱いの第 2 時

前時…DVD「ドキュメンタリー結婚」(前半)を視聴し、小林夫妻の結婚差別を通して部落差別の事実について知った。

3 人権教育の視点

- 美穂さんがビデオ出演を決断した思いに迫り、部落差別の現状を理解する。(知識)
- 美穂さんの思いをもとに、自分が差別と向き合い差別をなくしていこうとする意欲態度を養う。(価値・態度)

4 指導上の留意点

- DVD (前半) は、前時に視聴しておき、小林夫妻の受けた部落差別の内容を把握しておく。
- DVD を見て、美穂さんの気持ちを考える際には、実際にインタビューで話した内容だけでなく、言葉にできない思いについても推量し、考えるようにする。
- 若宮さんの「よかったね美穂ちゃん」(朝日新聞)の資料を提示し、明るい展望をもって終えるようにする。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	○教師の指導・援助 ◎人権教育の視点	時	備考
導 入 ／ 展 開	1 DVD (前半) の内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・小林夫妻って美穂さんの両親だった。 ・美穂さんの両親の受けた厳しい結婚差別を知った。 ・美穂さんのおじいさんは理解してくれていないのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前半のあらすじや登場人物を確認しながら、小林夫妻に厳しい結婚差別があったことを一緒に確認する。 	5	「ドキュメンタリー結婚」DVD (後半) 学習カード
	2 「ドキュメンタリー結婚」(後半)を視聴し、美穂さんの気持ちを考え合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">大人になった美穂さんは、どんな思いを伝えたくてビデオに出演したのだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・美穂さんは、前のビデオから大人になって、両親の気持ちやおじいさんの気持ちなど、いろいろ考えるようになったから、今思っていることをそのまま伝えたい。 ・自分の出身のことを真剣に考えていることを伝えたい。 ・ビデオに出て、自分の今の気持ちを理解してくれる人を増やしたい。 ・このビデオをおじいさんにも見てもらって、わかってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードに自分の感じたことや考えたことを書くよう促す。 ○数人発言後、ペアやグループで意見交換できるよう声掛けする。 ○美穂さんが堂々とビデオに出演したことは、部落差別と向き合う判断・決意をした姿であることを肯定的に受けとめ、共感できるようにする。 	30	

<p>／ ま と め</p>	<p>3 美穂さんの思いをもとに、差別をどう向き合っていくべきか考える。</p> <p>4 本時を振り返る。</p>	<p>伝えたい思いがあったのに、美穂さんがずっとビデオに出演しなかったのは、なぜなのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実は、今だってずっと悩んでいるんじゃないのかな。 ・ビデオを見て悪く受け取る人もいるかもしれないな ・不安な気持ちがあるのではないか。 ・出演をきっかけに差別されたり、結婚できなくなってしまうかもしれないと思ったのではないか。 <p>不安や嫌な気持ちがある中で、私たちは、部落差別とどう向かい合っていけばよいのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと迷ってまでビデオに出てくれた美穂さんの思いを受け止めたい。 ・美穂さんと同じように悩んでいる人の思いを知りたい。 ・私たちが差別されるかもしれない不安を与えているのだから、積極的に差別をしないことを訴えたい。 ・自分の結婚についても家族としっかり話し合いたい。 ・部落差別を正しく学んで、自分が差別をしないことを行動で示していきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・見守って、応援してくれる人がいてよかった。 ・私も美穂さんの彼のようにしっかり受け止めたい。 ・おじいさんともいつか理解し合える日が来るといいなと思う。 ・家族にも、今日友だちとこの時間に考え合ったことを伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4、5 人のグループペアやグループで話し合えるよう声掛けする。 ○ 友だちの話を聴いて、どこが同じで違うのか、取り入れたいと思った意見は学習カードに書き込んでおくのがよいことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の振り返りを学習カードに書き残すことを伝える。 ○ 美穂さん出演を躊躇させたのは、「世間＝私たち」でもあることを問いかけた。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 右の資料を紹介する ○ 「今日考え合って自分にとって大事なことは何だったのだろう」と問いかける。 ○ 数人の意見を紹介し、共有できるようにする。 ◎ 部落差別の現状を理解した上で、美穂さんの思いに気づき、自分はどうすべきか考えることが出来たか。 	<p>15</p>	<p>学習カード</p> <p>「よかったね美穂ちゃん」(朝日新聞) ☆</p>
----------------------------	--	--	---	-----------	--

☆「よかったね美穂ちゃん」 1997. 7. 14 朝日新聞コラム

(Human Rights in Nagano 高校用同和(人権)教育指導資料にも転載)

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/jinken/gakko/humanrights.html>

男らしさ 女らしさ 自分らしさ

(特別活動)

対象：小学高学年以上

1 本時の主眼

性別による固定的な見方や生活の中での役割・仕事を考える場面で、性からの見方や役割意識の変化について考えあうことを通して、性別による固定的な生き方に縛られることなく自分らしく生きることを大切にする意識を持つことができる。

2 人権教育の視点

- 性別による固定的役割分担の解消の意義を理解する。(知識)
- 社会的性差にこだわらず希望や目標を持って生きる態度を育てる。(価値・態度)
- 性別にこだわらない友だちの家の家族のあり方や、他の人の考え方などそれぞれの違いを認める。(価値・態度、技能)

3 指導上の留意点

- 子どもたちの家庭のあり様から考える場面があるが、各家庭のさまざまな事情によりそのような役割分担になっていることから、どのようなあり方も否定的にとらえないように配慮する。

4 展 開

段階	学習活動	予想される児童・生徒の反応	指導・助言	時	備考
導入	1 これまでの生活から「男(女)らしく～」「男(女)だから～」「男(女)のくせに～」と言われて嫌な思いをしたこと、聞いたことを思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・男だから泣くな。 ・女だから、食事の用意を手伝う。(弟はなんで手伝わなくていいの?) ・男のくせにうるさい。(お姉ちゃんをよくしゃべるのに) ・女のくせにおてんば。(私だってサッカーしたい) ・女らしい言葉づかいを。(男の人だって丁寧な言葉じゃないといけないはずなのに何で、女にだけ女らしくっていうのかな) ・男らしく堂々としろ。(男とか女に関係あるの?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたくないことについては言わなくていいことを前提とする。 ・言われた時の嫌な気持ちについても併せて発表できるように声掛けする。 	10	1・2については、「あけぼの『人間に光あれ』」P6・7のワークも活用できる
展開	2 家庭の中のお父さんがする役割や仕事、お母さんがする役割や仕事があるか思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除や、洗濯や、ご飯を作るのは、お母さんやおばあちゃん。 ・庭の草取りはお父さん。 ・洗いものはお父さん。 ・お父さんとお兄ちゃんは洗車。 ・ご飯の買い物はお母さん。 ・うちは、買い物はお父さんのときとお母さんのときがある。 ・うちは、掃除はお父さんとぼく。 ・うちと、違うところがあるなんてびっくりした。 ・お父さんがご飯の用意するんだ。うちでは見たことがないな。 ・いや、それもかっこいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事や役割を性別にまとめる。 ・発表の中で児童生徒の性別による固定的役割分担意識が出されれば取り上げる。 ・教師の子どもの頃の固定的役割を話す。 ・男女問わず役割を分担している例を取り上げる。 ・自分の家と友だちの家の違いについての感想を取り上げる。 	10	
役割や仕事について「性」の視点で見つめてみよう。 そして、自分の将来について考えてみよう					

	<p>3 世の中の役割や仕事で、男の役割や仕事、女の役割や仕事だと見られているものや、イメージが変わってきているものについて、考え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男の仕事というイメージのもの <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ選手・運転手(士)・大工・寿司屋の板前・医師・漁師・バスの運転手・タクシーの運転手など ○ 女の仕事というイメージのもの <ul style="list-style-type: none"> ・美容師・看護師・保育士・キャビンアテンダント・モデル・チェッカー(レジ)・受付など ○ ほとんどのものが男性でも女性でもやっている <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の変化から考える。 保母→保育士 看護婦→看護師 ・女性のトラックやバスのドライバーを見たよ。 ・保育園に男の先生がいて、運動が得意で楽しかった。 ・自分のやりたい仕事をやっていてかっこいい。 ・私も、「男だから」「女だから」ということではなくて仕事を選びたいな。自分のしたい仕事があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性別でイメージできる仕事に分ける。 ・本当に性でか分けられているかを考えさせる。 ・昔と今の様子を知らせる。 ・女性の消防士・電車の運転士や、男性の保育士・看護師など少数派の写真を提示したり、それらの方々の仕事に対する思いを知らせ、感想を発表させる。 	15	次ページの資料
まとめ	<p>4 自分のこれからの生き方(役割や仕事)に対して本時を振り返り、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男でもたくさん家事のお手伝いをして、家族を助けたい。 ・女でもお父さんと一緒に林業などの仕事をしていきたい。 ・将来の仕事について、もっと自分で考えてみたくなった。 ・いろいろな仕事について、男だからとか女だからと考えずに調べてみたい。 ・自分のやりたいことをやっていく、「かっこいい」生き方がしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分ができそうなことや将来の夢について今日の学習から考えたことを振り返りカードにまとめられるように声掛けする。 	10	・振り返りカード

※ここでは、「性同一性障がい」の学習につなげるため、1時間の扱いにした。長野県教育委員会で作成した「一緒に行こうよ(人権教育指導事例集)」では、3時間扱いで男女共同参画を中心に扱った展開例もある。

消防署勤務「消防士長(救急救命士)」のKさん(女性)



私の仕事は、消防士です。救急救命士の資格も持っています。火事の時、いち早く現場に駆け付け消火活動にあたり、救急車で出動し救急救命処置をし、速やかに病院へ搬送したりすることが主な仕事です。勤務は男性の消防士と変わりません。

どちらかというとな事務仕事が苦手な人で体を動かすことが好きでした。また、父がスキーのパトロールをやっていて、ケガをしたスキーヤーの手当てをしていることも見てすごいなあと思っていました。そんなことがあるのか、体を使って人を助けるような仕事がしたいと思っていました。看護師ではなくて、救急救命士の資格を取ったのは、一番早く助けることができる仕事であると思ったからです。また、兄が消防士だったことも大きかったと思います。

今の消防署では女性は一人だけです。でも困ったことはありません。ただ、この仕事に欠かせない、日ごろの訓練の中では、やはり男性の体力にはかなわず悔しい思いをすることがあります。でも、反対に救急の現場では、女性ということで同じ女性の方に安心していただけることもあります。一番うれしいのは「ありがとうございます。おかげで・・・。」と感謝されることです。

この仕事は、誰かのためにできる仕事で、人の役に立つ仕事です。体を動かすことの好きな私にはとても向いている仕事だと思っています。

病院勤務「看護師」のOさん(男性)

私の仕事は、病院の看護師です。一般の病棟や、集中治療室を担当しています。勤務は、昼間の勤務と夜中の勤務を当番制で行う2交代制です。

小中学生の頃、高齢のひいおばあちゃんの手を引いて歩くのが好きで、介護の仕事をしたというおぼろげな思いはそのころからありました。ある時、私の目の前で交通事故がありました。その時、友だちのお母さん(看護師)が、倒れている人の救助を手際よく始めました。その姿を見て、介護や看護の仕事に就きたいという思いが強くなったと思います。また、そのころ私の母が看護学校に入校していて、就職のアドバイスをもらう中で、介護や看護のいろいろな仕事の中から「看護師」を選びました。

女性ばかりということは分かっていましたが、抵抗なく看護学校に入学しました。それは、外国への何回かの留学の中で、男女が同じように生き生きと働き、生活している様子を見てきたからかもしれません。

ただ仕事を始めてみると、それまでのように当然女性が看護してくれると思っている患者さんから「えっ、男性」と言われることがありました。また、「男性なのになんで看護師なの？男性は医者でしょ？」と同僚に言われたこともあります。でも、男性だから有利な点もあります。患者さんをベッドに移したり、車イスに移したりするようなことは結構力があるので、「男の人だと安心するわ」と言われることもあります。

命の重さに直接かかわる仕事なので責任も重いけどやりがいがあります。そして、好きなことだから、これまで続けて来ることができましたし、これからも続けていきたいと思っています。



ぼくのこと わたしのこと

(特別活動)

対象：小学高学年以上

1 本時の主眼

資料「ぼくのこと わたしのこと」を読んだ子どもたちが、こころの性とからだの性が一致しない人のことを想像し、当事者の手記からまわりの無理解によりいじめにあってきたことを読み取ることを通して、性同一性障がいとその当事者の思いを知り、その当事者に寄り添った自分のかかわり方を考え、生活に取り入れようとする事ができる。

2 本時の位置

前時…男らしさ女らしさではなく自分らしさを大事にすることを考えた

3 人権教育の視点

- こころの性とからだの性が一致しない性同一性障がいについて知る。(知識)
- 性同一性障がいの当事者がどんな思いで日々生活しているかを知る。(知識)
- 当事者の思いに寄り添い自分のかかわり方を考える。(価値・態度)

4 指導上の留意点

- この教室にも当事者がいるかもしれないと考え真剣に語り合える場を設定する。

5 展 開

段階	学習活動	予想される児童・生徒の反応	指導・助言	時	備考									
導入	1 「ぼくのことわたしのこと」を読んで、この二人のことを想像する。	ぼくのこと ・ぼくって言うから男の子。 ・野球やカンけりが好き。 ・ワンピースの水着を着るのは女の子だけど、どういうことだろう。 ・本当は女の子かも。 わたしのこと ・こちらは私だから女の子。 ・おかしづくりや小物づくりが好き。 ・水泳パンツをはくのは男の子だけどどういうことだろう。 ・本当は男の子かも。	・ワークシートにどんな子か書くように指示する。 ・「ぼく」「わたし」それぞれに、書かれている情報を整理し、二人の性別について想像するよう指示する。 ・子どもが持った疑問について明確に位置付ける。	10	・資料「ぼくのことわたしのこと」 ・ワークシート									
女の子っぽい男の子や、男の子っぽい女の子のことを考えよう														
展開	2 性同一性障がいを知る。	・体が男だったらみんな自分は男だって思っていると考えていたけど、そうではない人がいるんだ。 ・自分とは違うから、わかんないな。 ・テレビに出ている〇〇さんたちのことかな？	・心の性と、体の性に分けて図示する。 ・心の性と体の性が一致しない状態が続くことを「性同一性障がい」と言うことを伝える。 ・障がいではなく、異性へのあこがれの場合もあるので注意する。 ・資料の「ぼく」「わたし」はどうか考え、左のような表で説明する。	10										
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>からだ</td> <td>こころ</td> </tr> <tr> <td>「わたし」</td> <td>男 性</td> <td>女 性</td> </tr> <tr> <td>「ぼく」</td> <td>女 性</td> <td>男 性</td> </tr> </table>		からだ	こころ	「わたし」	男 性	女 性	「ぼく」	女 性	男 性			
	からだ	こころ												
「わたし」	男 性	女 性												
「ぼく」	女 性	男 性												

		当事者の思いを読み取り、自分はどうしていきべきか考えよう			
	3 春奈さんの手記を読んで、どんな思いで生きてきたか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園のころから、自分は女の子だと思っていたんだ。こんなに早くからそう思っていたことに驚いた。 ・小学校、中学校で、たくさんいじめられていてひどい。 ・テレビの〇〇さんたちもいじめられていたかも。 ・性同一性障がいの人だって知らないから、女っぽい変な子だっていじめられてしまうのかな。 ・今は、女性として堂々と暮らしているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手記を読んで、春奈さんがどんな思いで生きてきたかにふれて感想を書くよう指示する。 ・春奈さんは心が女性、体が男性であることを確認。 ・いじめられていた事実と、「まわりと違うこと」がいじめの理由になってしまっていたことを整理。 ・なぜいじめになるのかも考えさせたい。 ・身近に引き付けるため、メディアで登場する人たちのことも紹介することもある。(混同に注意する) 	15	春奈さんの手記
まとめ	4 自分の代わりに「ぼく」「わたし」「春奈さん」のような人がいたらどうするか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まではテレビで見て笑っていたけど、春奈さんの手記を読んで、その人の気持ちをわかるようにしたい。 ・前の時間のように、男とか女ではなく「自分らしく」学校生活ができるよう支えたい。 ・困ったことがあったら一緒に考えていきたい。 ・「女みたい」「男みたい」って友だちをバカにするようなことは言わないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書かせる。 ・グループで、少し話合わせる。いくつかのグループに発表させる。 ・対応についても子どもたちのプランがあれば大事に位置づけたい。 ・春奈さんのような子が身近にいるいないではなく、今からできることについても、(もし、いたとしたらどうするか)考え合いたい。 	10	

【参考資料】

性同一性障がい (Gender Identity Disorder:GID)

「からだの性」と「こころの性」とが一致しない状態で、自分の体の性を強く嫌い、その反対の性に強く惹かれた心理状態が続く。

からだの性は男性、こころの性は女性 male to female (MTF)

からだの性は女性、こころの性は男性 female to male (FTM)

に分かれる。

性同一性障がいと性別違和

2013年5月に公開されたアメリカ精神医学会の精神障害／疾病の診断・統計マニュアル第5版(DSM-V)では、性同一性障がいを指す「Gender Identity Disorder : GID」が「Gender Dysphoria」に変更された。2014年5月、日本精神神経学会は「Gender Dysphoria」を「性別違和」と訳した。(中略)

GID(性同一性障がい)学会では、DSMの改訂前から擁護に関する委員会を設置して情報収集を行っている。「障がい」とあえていわなくても、治療が健康保険の適用で行うことができる国になっていれば、「障がい」は削除されることが望ましい。

「学校の中の「性別違和感」を持つ子ども 性同一性障害の生徒に向き合う」

中塚幹也：(岡山大学ジェンダークリニック GID学会理事長) 著 より

「ぼくのこと わたしのこと」

「ぼくのこと」

ぼくは野球が好き。大きな声で「ナイスバッティング」とか「バッチ、来ーい」って言いながら試合をする。バッターボックスの緊張感がたまらない。本当は、高校野球みたいに「ぼうず頭」にしたけれど、お母さんが「だめ」っていう。

それから、友だちと「カンけり」をするのが大好き。近くのお宮で、暗くなるまで思いっきり走り回る。こま犬のかげから、ダッシュでカンをけりに行くのがたまらない。

茶色のランドセルで、黒っぽいTシャツに、ジーパンをはいて学校に行くのがいつものぼくのパターン。



でも、ワンピースの水着で泳がなくてはいけなくて水泳の時間がたまらなくていやなんだ。ぼくは水泳パンツで泳ぎたいんだ。

「わたしのこと」

わたしはピアノを習っている。5才からやっているの、今はもう、学校で伴奏を任されることもある。

それから、おかし作りが得意。クッキーは、「サクサクだね」ってほめられるほどの腕前になった。今は、シフォンケーキ作りに「はまって」いる。ふわふわの焼きあがりがかつてもむずかしいけど、うまくなった時の「おいしい」っていう家族の喜ぶ顔がたまらなくてうれしい。

どっちかというと、家の中で過ごすことが好き。大好きなネコのぬいぐるみを抱きながら、本を読んだり、布の小物を作ったりするのもわたしのうれしい時間。



でも、水泳パンツで泳がなくてはいけなくて水泳の時間がたまらなくていやなんだ。わたしは恥ずかしいから、ワンピースで泳ぎたい。

春奈さんの手記

1959年(昭和34年)7月誕生。男の子の誕生で、家族・親戚しんせきから喜ばれ、祖父が「政幸」まさゆきと名付ける。

保育園卒園まで

着る物の多くは、近所の女の子のお下がりだったが、わたしは自分のことを、「女の子」だと信じていたので、女物を着ることが当然だと思っていたし嬉しかった。ただ母は、女の子のお下がりとはいえ、スカートを履かせることは無かったと言っていた。しかし、わたしは母に「スカートを履きたい」とだだをこね、母や保育士さんを困らせたという。

小学生のころ

相変わらず、女の子のお下がりを着て学校に通っていたが、「おとこおんなだ」と言われ、いじめを受けた。「だって、わたしは女の子だもん」と思いながらも言い返せなかった。

トイレや身体測定などが男女別々になり『わたしだって女の子なのに』と思いながらも、女の子の列に入れない自分に悲しくなってしまう。

高学年になっても、いじめは続いた。無視、悪口、物かくしをされ、つらかった。わたしは担任の先生や、強い女の子に助けを求めたが、そのことがいじめを加速させ、ますます男の子からのいじめが多くなった。

修学旅行、遠足、音楽会など、いろいろな行事があったが楽しい思い出はなにも残っていない。

中学生のころ

貧しい中、両親がお金を工面して買ってくれた、男子の学生服や体操着を着るのがイヤだった。

同じ小学校から入学した生徒も多く、1学期も終わらないうちに、わたしはクラスのほとんどの人からの、いじめの的になってしまった。

2年生のとき、女の子っぽい仕草のわたしに、「女子の制服を着ろ」と、ブラウスとスカートを渡された。「イヤ」と言うと、男子から何度もお尻をたたかれた。たたかれるのがいやで、「着るから、もうたたかないで」と言って、しかたなく着ると、「やっぱりこいつは女だ、女だ」と笑って、隣のクラスまで連れて行かれて、見せしめにされた。わたしは女の子だけど、いじめで女子の制服を着せられることはイヤで悔しかった。体操着のときもあった。こんないじめをしばしばうけた。

その数日後、「わたし、そんなに強くないよ。本当の女の子だったらいじめられないのに」と、左手首にカミソリをあてた。脈を外してしまい、死ぬことができなかったが、血はたくさん出た。あまりの痛さに自分で治療をしたのだが、「わたしは、死ぬこともできない情けない人間だわ」と、自分のことを徹底的に責めるようになった。

小学校以上に、楽しい思い出は、なにひとつ残っていない、いじめ抜かれた中学生時代だった。しかし、どんなにいじめられても、それでもわたしは学校に通い、希望する学校に進学した。

高校生のころ

わたしは、わたしをいじめた生徒たちが行かない、隣の市の高校に進学した。制服もなかった。フォークソングが最も流行した時代だったので、長髪で、女の子っぽい服装で通学しても、変に思われず、先生からしかられることもなく、性別を意識しないで高校生活を送ることができた。

この高校時代、自分の一生にかかわる、大きな出来事が二つあった。

一つは、生涯の友となる女子と知り合えたこと。彼女はわたしのことを女子として認めてくれた。彼女には勉強のこと、個人的なこと、何でも相談できた。50歳近くになったわたしが、性同一性障がいの治療をしたいと言うと、「ずっと応援しているからね」と、心から理解してくれたのだ。

二つ目は、野球部の男子を好きになったこと。男子を真剣に好きになり「やっぱりわたしは、女の子なんだわ」と、心と体の性の不一致をうらみ、「好き」と、告白できない切なさに胸を痛めた。

社会人になって

就職して東京に転勤。会社には男の姿で行ったが、アパートでは常時、女の子の姿で過ごした。また、外出は、中性的な女物を着用して出掛けた。「これが本来のわたしなのよ」と、嬉しくて楽しかったが、同時に「なぜ、心は女の子なのに体が男なの」と、性別に対する^{きょうれつ いわかん}強烈な違和感に耐えられなくなっていった。

2007年(平成19年)、父が^{かんふぜん}肝不全で他界。75歳の若い死だった。父の息子として産まれてきたわたしが、父の娘として送ってあげたかったがかなわなかった。

父の死から数年後、わたしは、性同一性障がいの治療を開始することを決断。カミングアウトの方法も考えた。何も言わず、変質者だと思われて生きていくくらいなら、恥ずかしい思いをしても、「わたしは、性同一性障がいの当事者なの」と、告知する方がいい。そして、2011年、母に話した。母はとても驚いた様子だったが、わたしから、半世紀を超える苦悩を説明すると、「女になっても自分の子どもであることに変わりはない。母と娘二人で、今まで以上に仲良く過ごしていきましょう」と涙を流して理解してくれた。

その後、性別^{てきごう}適合手術を受けることが決まった。わたしは母に報告し、お墓に行き、父にも報告した。「とうちゃん、おこっているかしらね・・・」と、わたしが言うと、「ううん、『優しい、いい娘になるんだぞ』って笑っていたよ」って母。多分、生まれて初めてだと思うけど、母の胸に顔をうずめて思い切り泣いた。

2012年6月18日、手術はうまく行き、裁判所から性別の変更を認めるとの^{しんぱん}審判結果が届いた。わたしは、やっと女の子に戻れたのだ。すぐに会社に報告し、女子社員【春奈】が誕生した。

春奈は今、役場の受付で接客業務をしている。受付は、春奈があこがれていた仕事で生きがいだ。50歳を過ぎてから、やっとなつかめた自分らしさ。母と二人、毎日を大切に生きていこうと思う。

ワークシート「ぼくのこと わたしのこと」 _____ 組 名前 _____

「ぼく」はどんな子だと思いますか？

「わたし」はどんな子だと思いますか？

<性同一性障がいとは？>

春奈さんの手記を読んだ感想を書きましょう。

自分のまわりに、「ぼく」「わたし」「春奈さん」のような子がいたらどうしていきますか

最後まで輝いて…

(道徳)

対象：中学生以上

- 1 主題名 お年寄りと共に生きる
内容項目 「家族愛、家族生活の充実」
- 2 資料名 「最後まで輝いて…」(『あけぼの 人間に光あれ』※) ※以下『あけぼの』と表記
- 3 本時の主眼
地域の福祉介護施設でお年寄りとの交流活動を行った生徒が、資料「最後まで輝いて(あけぼの)」を読み、「私」の「心臓が破裂するような衝撃」を受けた理由を考えることを通して、曾祖父が家族の幸せを願い、役立ちたいと思っていたことに気づき、「お年寄りと共に生きる」とはどうすることか考えを深めることができる。
- 4 本時の位置(総合的な学習の時間とのつながり)
○ 前時：小グループに分かれ、お年寄りとの交流を福祉介護施設で行った。
○ 次時：前回の交流活動の振り返りや、あらたに気づいた「お年寄りと共に生きる」ことを交流にいかして次回の交流活動を考える。
- 5 人権教育の視点
○ ふるさとの現状(高齢社会)や、高齢者の方たちの生活、望んでいること、介護・福祉の課題を知る。(知識)
○ 高齢者の方の心情を共感的にとらえながら受け入れていこうとすることができる。(技能)
○ 高齢者の方の生き方に対する尊敬の心を持ち、共に生きようとすると同時に自分のまわりの人とも同様に接する良さが分かる。(価値・態度)
- 6 指導上の留意点
○ 「最後まで輝いて」の内容が分かりやすいように難しい言葉は解説を加えながらゆっくり、読む。
○ 自分に引き寄せて考えられるように、導入や終末では総合的な学習の時間における「地域の高齢者との交流活動」との関連付けを図る。
- 7 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・助言・ 評価	時	備考
導入	1 今までのお年寄りとのかわり方を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・動くことや話を聞くこと、見ることが大変な方もいる。 ・大切にしないではいけないと思う。 ・ちょっとめんどろに感じる時もある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 2040年の65歳以上人口の占める割合 長野県 38.4% (「日本の地域別将来推計人口」 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月推計より) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りのことをどのように捉えているか問う。 ・交流活動での様子も振り返らせる。 ・高齢化率の資料を示し、これからはお年寄りが必ず側にいて共に生きていく社会になるということを伝える。 	5	
展開	2 資料の前半を読み、私が「いつも憤りを感じていた。」理由やそのことをどう思うかグループで話し合	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「資料『最後まで輝いて…』を読んで、お年寄りと共に生きることを考えよう。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・怒鳴り、殴りかかろうとするから仕方がない。 ・気遣う家族に対しても反省や感謝の気持ちなどまったく感じられなから、憤ってしまうのも分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「最後まで輝いて…」の前半を読む。 ・「私」が曾祖父に憤りを感じていたことをどう思うか問う。 	10	資料「最後まで輝いて」あけぼのP39

<p>う。</p> <p>3 後半部分 を聞き、心臓 が破裂するよ うな衝撃を受 けた理由を考 える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの介護って大変だな。 ・おじいちゃん、おばあちゃんがか わいそうだな。 ・自分だってそう感じると思う。 ・うちのおばあちゃん、だんだん、 耳が遠くなってきて、話がうまく 伝わらないことがあるよ。 ・うちのおじいちゃんも…だったこ とがある。 ・寝たきりのおばあちゃんがいるけ ど、父や母は大変そう。 ・何回も同じこと言うことがあって、 つい怒鳴っちゃうことがある。 <p>・どのように変わったのかな。</p> <p>・「安楽死」という紙を見つけたこと じゃないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃お年寄りとかか わっている自分た ちの気持ちを共有 する。 ・学習カードに記入し た後、グループで話 し合わせ、全体で発 表させる。 ・自分の経験を語り合 っているグループが あれば発表を促し、 介護・福祉の課題と して捉えられるよう にする。 ・「私」の気持ちが変わ っていくことを知ら せ、後半を読む。 ・「私」が変わること になった、一番大き な出来事に着目させ 	<p>5</p>	<p>学習カー ド</p>
<p>4 「心臓が 破裂するよ うな衝撃」を受 けた理由を考 えよう。</p>	<p>私が「安楽死」という紙を見つけ「心臓が破裂するよ うな衝撃」を受けたのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾祖父が書いた「安楽死」という 紙を見つけたから。 ・曾祖父母の笑顔と優しい言葉が何 よりも「私」の力とがんばる勇気 を与えてくれていたから。 ・人の世話になるのではなく、元 気で輝いた自分でい続けたい。誰か の役に立っていたいという気持ち に気づいたから。 ・誰よりも家族の幸せを祈り大切 に思っていたことに気づいたから。 ・家族の大変さを思い、自分の死を 願ってまでも、家族の幸せを考 えていた曾祖父の気持ちに気づいた から。 ・自分や家族に対する曾祖父の思 いの深さに気づいたから。 ・「私」の、動けないから代わりに何 でもしてあげよう、という考えは 優しさでも思いやりでもない。一 人の人間として認めてあげるこ と、伝えることのできない心の声 に耳を傾けることが一番大切だ ということに気づいたのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安楽死」という紙に、 なぜ衝撃を受けたの か問い、学習カード への記入を促す。 ・グループで自分の考 えたことをたくさん 出し合うことを促 す。 ・友だちの話を聞いて 自分が考えたことを 学習カードに書くよ う指示する。 ・グループでの話し合 いの様子を全体で共 有しながら、「私」が 受けた衝撃の大き さと相手の心の声に耳 を傾けることの大切 さに共感していく。 <p>お年寄りと共に生きることは何かをし てあげるだけでなく、相手の人格を尊 重し、支え合って生きることというこ とに気づいたか。(学習カード・発言)</p>	<p>20</p>	<p>学習カー ド</p>

ま と め	5 本時の学習を振り返り、交流へ意識をつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・何かをしてあげるだけではだめだと思う。 ・その人が何を願っているのか考えながら接したい。 ・ちゃんと心の声に耳を傾けることが大切。 ・お年寄りに感謝し、一緒に何かをして活躍してもらいたい。 ・お年寄りの人たちはどんなふう生きてきたのか知りたい。 ・何回でも、お年寄りの話を聞いてあげたいな。 ・自分の知らないことを教えてほしい。 ・自分たちのことも、もっと知ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お年寄りと共に生きる」ことについて、学習したことから振り返ることができるよう発表の場を設ける。 ・交流活動に結び付けた意見には、「どんな気持ちで接したいと思いますか。」「どんなことをお年寄りは心から喜んでくれるのかな。」等問い返し、お年寄りにとって何がうれしいのかについても考え合いたい。 	10	学習カード
-------------	--------------------------	---	---	----	-------

「最後まで輝いて…」学習カード(例)

年 組 番 氏名

資料『最後まで輝いて…』を読んで「お年寄りと共に生きる」とはどうすることか考えよう

1

「私」が、曾祖父に対していつも憤りを感じていたことをあなたはどのように思いますか

2

「私」が曾祖父の枕の下に安楽死と書かれた紙を見つけ、「心臓が破裂するような衝撃を受けた」のはなぜですか。グループの人と話をして考えたことを書きましょう。

私はこう思う

〇〇さんの話を聞いてこう思った。こう考えた

3

「お年寄りと共に生きる」ことについて、振り返ろう

聴導犬と共に生きる

(特別活動)

対象：中学生以上

1 本時の主眼

聴導犬の仕事を実際に見た子どもたちが、音を知らせる以外の聴導犬の役割について考え合うことを通して、周囲の人々との交流が増えることも聴導犬の大事な役割であることに気づき、聴導犬ユーザーの心情に触れながら、聴覚障がいのある方への理解を深め、かかわり方を考える。

2 本時の位置

- 前時：聴導犬協会の方の講演を聴き、聴導犬がユーザーに音を知らせる様子を見た。
(講演会に代えて次頁に紹介したDVDを視聴して聴導犬に関する授業を行うことでも代えられる。)

3 人権教育の視点

- 聴導犬には音を知らせる以外にも、リスク・コミュニケーター(ユーザーの存在に気づかせたり、周りの人たちとの交流の機会をつくる)としての役割があることを理解する。(知識)
- 障がいのある方を温かく受け入れ、思いやりを持って接していこうとする。(価値・態度)

4 指導上の留意点

- 必要に応じて「リスク・コミュニケーター」という用語を提示し、解説をする。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・助言・ 評価	時	備考
導入	1 前時の講演会を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬が生活に必要な音や危険な音を聴導犬ユーザーに教えてくれる仕事の様子を見た。 ・聴導犬は訓練を受けることで様々な音を聴導犬ユーザーに伝えることができるようになっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について覚えていることを聞き、本時の課題につなげる。(前時にDVDの視聴を行った場合は、その振り返りをする) 	5	学習カード
展開	2 聴導犬の役割について考え、意見交換をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生活に必要な音や危険な音を教えてくれる以外に、聴導犬にはどんな役割があるだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ではないので、淋しくない。 ・聴導犬が精神的な支えになる。 ・聴くことはできなくても聴導犬が教えてくれるので、自信を持って生活することができる。 ・他にもあるかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での意見交換でそれぞれの考えを共有した上で、次の発問につなげる。 	10	写真2枚
	3 聴導犬ユーザーの方が写っている2枚の写真を比較して、聴導犬の役割を再考する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">聴導犬ユーザーの方が写っている2枚の写真を比較して、聴導犬の役割や、ユーザーの気持ちを再度考えてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬がいると聴覚障がいのある方がいるということがわかる。 ・確かに聴導犬がいないと、ユーザーの方に聴覚障がいがあることには気づけないな。 ・聴導犬のおかげで聴導犬ユーザーは周りの人と交流ができて嬉しいと思う。 ・きっとまた外に出てみようという気持ちになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬がいるときといないときの周囲の反応の違いを示した写真を提示し、再考を促す。 ・聴導犬がいるときといないときのユーザーの方の気持ちの違いも考えるように発問する。 	23	

ま と め	4 今日の授業で学んだことと感じたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・耳が聞こえない、うまく話せないという障がいがあっても、聴導犬のおかげで周囲と交流できる人もいます。 ・私も障がいのある方に敏感に気づき、支えられる人になりたい。 ・聴導犬を見かけたら、邪魔にならないように気をつけて、ユーザーの方とお話したい。 	<p>聴覚障がいのある方への理解を深めかかわり方を考えることができたか。 (学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とのかかわりで考えている生徒の感想を共有し、次時の学習につなげる。 	12	
-------------	-------------------------	--	---	----	--

【参考資料1】 社会福祉法人 日本聴導犬協会 (聴導犬に関する問い合わせ)

上伊那郡 宮田村 7030-1 TEL 0265-85-4615 0265-85-5290
FAX 0265-85-5088 E-mail inf@hearingdog.or.jp

【参考資料2】 補助犬に関するDVD等の映像の紹介 (いずれも You Tube で視聴可能です)

この指導案では前の時間に講演会を聴く単元展開になっていますが、事情によっては以下の映像を利用して授業を行うことができます。

1 「聴導犬かるちゃんがいる時、いない時」(日本聴導犬協会)

聴導犬がいる時といない時の聴導犬ユーザーの方の生活のちがいを紹介しています。(2分22秒)

2 「補助犬ってなあに？」(日本補助犬情報センター URL: <http://www.jsdrc.jp/>)

このDVDの中では「聴導犬あみのすけと東さん」と題して小さい頃から聴覚障がいのある東さんと聴導犬あみのすけの生活の様子を紹介しています。(約5分間)

【参考資料3】 聴覚障がいは「コミュニケーション障がい」?

聴覚障がいは「コミュニケーション障がい」とも言われます。その特徴としては、まず、「障がいが見えない」ことです。周囲からの理解が乏しいために、時には孤立感や疎外感を強く感じてしまいます。2つめは、音声情報が得られにくいために、避難通報や警報音が利用できず逃げ遅れるなど、命の危険性が高いことです。そして、コミュニケーション方法が、個人個人で異なることもコミュニケーションを難しくしています。手話を使う人もいれば、口の動きを読める読話ができる人もいますし、筆談の方が良い方もいます。周囲の方との間だけでなく、聴覚障がい者同士であってもコミュニケーションが難しい場合もあるのです。

【参考資料4】 リスク・コミュニケーション、リスク・コミュニケーターとは…

「リスク・コミュニケーション」とは、危機が起こる前に、当事者、たとえば病院ならば、病院職員、警備、消防署などの管理者側だけでなく、患者や患者の家族、病院近辺の住人など、災害時の当事者となる人々が、「考えられる災害について、自分には何ができるとか、何をしてほしい」とか、ニーズや可能性を話し合う段階のことです。このコミュニケーションが図られることで、危機時の当事者がお互いに助けあえることでのリスク回避や軽減が図られることとなります。特に東日本大震災以降、聴導犬にはこの「リスク・コミュニケーター」としての役割が期待されるようになりました。

そばにいても存在さえわからなかった聴覚障がい者に気付かせ、周囲に聴覚障がいによる生活での問題点への関心呼び起こす。「言葉」ではなく、「存在」するだけで、聴覚障がいについて気づかせ、聴導犬のユーザーが自分から情報の補助や手助けを求めなくても、周囲からの自主的なサポートを提供してもらう。そして最終的には、事故や災害などの緊急時において、周囲と聴覚障がい者とのコミュニケーションに役立つことにつながるのではないのでしょうか。

NHK「視点・論点」(2013年4月22日放送) 日本聴導犬協会会長有馬もとさんのお話より

本時で使用する2枚の写真

【聴導犬ユーザーが聴導犬と一緒にいるとき（駅構内）】

本時使用する写真については、心の支援課にお問い合わせください

【聴導犬ユーザーが一人にいるとき①（駅構内）】

本時使用する写真については、心の支援課にお問い合わせください